

5. 指定暑熱避難施設(クーリングシェルター)と涼み処

事例5. 京都府八幡市 「訪問看護ステーションあっと」による取組

- 「訪問看護ステーションあっと」は、これまでの代表のご経験をもとに、医療者や家族主体ではなく“ご本人様が主体的に意思決定できるように”との思いから京都府八幡市に設立。
- クーリングシェルターは身構えずに取り組み「地域や社会への貢献」。過度に理想を追求することなく、高齢者を中心に気軽に休んでもらえる場所として、まずは続けていくことが大切だという認識。
- 1階の**受付・相談スペース**兼倉庫を活用。
この場所は、職員が訪問先から戻ってきた際に必ず通るため、常に冷房が効いている状態に。
- 看護師などの専門職**がいることにより、緊急時の一次対応も可能に。



▲全景

1階は受付・相談スペースの他資機材の受入れ・保管場所、夜間はバイクなどを置く倉庫として活用している。2階が事務室。



▲入口

ポスターによるクーリングシェルター表示。左手に受付・相談スペースがある。今夏は4~5名の利用があった。



▲受付・相談スペース

訪問看護の相談やアドバイス等を行う他、クーリングシェルターとしても活用している。

■苦勞した点

自分の想いと、スタッフの想いとの間にギャップがあっただけなので、その点は注意するようにしている。

■工夫した点

訪問看護ステーションで2階建ての建物は珍しいという。入口にはセンサーやカメラを設置しており、2階からでも状況の確認など対応が可能である。